

文化財庭園保存技術者協議会 会報

2003.8 第3号

編集・発行：文化財庭園保存技術者協議会（代表：玉根徳四郎）

〒600-8361 京都市下京区大宮通花屋町上ル NPO みどりのまちづくり研究所内
TEL. 075-341-2600 Fax. 075-361-0961

評議会連絡所：〒606-8371 京都市左京区北白川瓜生山 2-116 京都造形芸術大学日本庭園研究センター

TEL. 075-791-9018 FAX. 075-791-9342

東京 連絡所：〒東京都新宿区西早稲田 1-6-3 福田ビル 3F 文化財庭園保存技術研究センター

TEL. 03-3202-5233 FAX. 03-3202-5394

文化財庭園保存技術者協議会平成 15 年度総会開かれる

さる 6 月 27 日、平成 15 年度総会が京都市の新都ホテルで開催されました。議事は平成 14 年度の事業報告、同決算報告、同監査報告、会則変更報告、会員資格審査報告、新会員の紹介、平成 15 年度事業計画、同予算についてであり、それぞれ承認されました。詳しくは総会資料をご覧ください。

引き続き情報交換会が開催され、全国から集まった 37 名が近況や今後の課題について活発な意見交換を行いました。

翌 28 日、29 日の両日は、すっかりお馴染みになりました京都御苑拾翠亭（旧九条家庭園）において、実技技能研修会が開催されました。今回も環境省京都御苑管理事務所・財団法人京都御苑保存会の皆様に多大なご支援とご援助をいただきました。総会には京都府文化財保護課石田裕二専門員、京都市文化財保護課今江秀史文化財保護技師がお越し下さいました。紙面を借りて御礼申し上げます。

平成 15 年度実地技能研修、技能技術錬磨のご案内

平成 15 年度の実地技能研修、技能技術錬磨の日程が決定いたしました。

実地技能研修：本会評議会員丸山宏名城大学教授を講師にお迎えし、岐阜県神岡町にある国指定史跡江馬氏城館跡下館跡庭園にて研修いたします。

江馬氏は、室町時代から戦国時代にかけて現在の岐阜県吉城郡神岡町・上宝村の一带を治めたとされる地方武士です。下館跡では、昭和 51 年から 3 年間の土地改良工事に先立つ発掘調査により、館の西・南・北を囲む塀や礎石建物、池をもつ庭園が見つかりました。昭和 55 年、江馬氏との関係が伝わる神岡町内の 6 つの山城跡とともに、郡として機能していた中世城館の携帯をよく示す貴重な遺跡として、国史跡の指定を受けています。平成 12 年からは神岡町により、下館跡を歴史公園として整備する事業が進められています。下館は「飛驒の花の御所」とも呼ばれており、最大部で東西約 27m、南北約 12m の東西に長い不整楕円形で、大きな石組みのある、往時の立派な庭の姿を偲ぶことができます。

日 程：平成 15 年 9 月 27 日（土）

場 所：国指定史跡江馬氏城館跡（岐阜県吉城郡神岡町殿）

講 師：丸山宏（評議会員・名城大学教授）

技能技術錬磨：岩手県指定有形文化財太田家住宅庭園

太田家住宅は、明治 43 年に太田家五代目幸五郎が日露戦争の不況と明治 35、38 年の大凶作による地元への救済事業として、用材、職人などを地元及び岩手県内で賄い作られました。派手さはないが素朴な中にも洗練された、多くの人手がかけられた岩手県内の材料と職人の技の見事な結晶と言えるものです。

しかし個人所有の文化財のため、維持管理を行っていく上で費用の問題が顕著となっており、庭園もなかなか管理されていないのが現状です。今後どのようにしていくべきか、私たちが考えてみたいと思います。

日 程：平成 15 年 10 月 18 日（土）～ 20 日（月）

場 所：岩手県指定有形文化財太田家住宅庭園

（岩手県胆沢郡前沢町字七日町 58）

監 修：中村一（評議員・京都大学名誉教授）

協 力：岩手県前沢町

平成 15 年度 今後の研修計画

●教養研修

(1) 12 月上旬（京都市内）

文化財庭園保存修理技術について、京都市内の事例を中心として教養研修を行う。

(2) 2 月中旬（東京都内）

東京都内の文化財庭園を対象に庭園の管理状況を現地担当者と意見交換を行いながら現地研修を行う。

●特別教養研修（準会員・研修会員対象）

8 月 22～24 日 京都造形芸術大学にて

京都造形芸術大学で開催される庭園学講座「文化財庭園の保存管理技術」を受講する。

●実技技能研修

12 月上旬 京都御苑内拾翠亭にて

樹木剪定技術に優れた保存技術者を指導者として、評議員の監修と講義を受けつつ実施する。

●実地技能研修

(1) 9 月 27 日 国指定史跡江馬氏城館跡庭園

武家邸宅の発掘庭園とその復元整備状況を視察調査し、丸山宏評議員他より講義を受けつつ、復元整備の技術・技法等について実地技能研修を実施する。

(2) 2 月中旬 東京都内文化財庭園にて

小仕事管理技術について優れた保存技術者を指導者として、評議員の監修と講義を受けつつ、樹木剪定について実地技能研修を実施する。

●特別技能研修（研修会員対象）

(1) 特別技能研修 8 月より月 1 回 拾翠亭等にて

当協議会評議員の監修、正会員の指導により、拾翠亭庭園において維持管理技術を研修するほか、管理計画・管理報告書の作成に関する特別技能研修を行う。

(2) 特別技能研修報告会 2月下旬 京都市内にて

拾翠亭等において行われた特別技能研修について、参加研修会員が評議会員に報告を行い、指導を受ける特別技能研修報告会を行う。

●技能・技術練磨事業

10月18・19・20日(3日間)

岩手県指定文化財の太田氏庭園の庭園管理状況について調査及び管理を行う。また、地域の技術者との技術交流、意見交換の中で相互練磨を行う。

平成14年度技能技術練磨・東京における教養研修・ 実技技能研修事業の報告

ここでは、昨年度の事業内容についてその概要を報告いたします。

技能技術練磨事業：平成15年1月24日から26日の3日間、参加者19名

宮崎県日南市飫肥において、武家屋敷の庭園群の現地視察を行ないました。この研修には文化庁記念物課加藤允彦主任文化財調査官、評議会員龍居竹之介氏も同行され、地元の庭園管理者や関係者、地元のボランティアガイド所属のメンバーとの意見交換や交流を行いながら進められました。

飫肥庭園群は、天正16年(1588)飫肥に入部した飫肥藩初代藩主伊藤祐兵時代から明治期にかけて作庭されたもので、現在7カ所の庭園が残っております。今回この7庭園を実地に訪れ、その特徴や管理状況、今後の保護のありかた等について現地研修を行いました。

会員諸氏には、それぞれの庭園の概要および主として庭園管理技術に関する評価レポートを作成していただきました。主だった意見を以下に掲載します。
旧報恩寺庭園(江戸初期)：自然林を背景とした池泉の庭で三連の石橋が特徴的である。石組みの面白い庭園であるが、低木類が繁茂し、石組みを隠しており残念という意見があった。

豫章館庭園(明治初年)：飫肥藩主伊藤家の庭園として作庭されたもので、中央に蓬莱島、背景に愛宕山を取り入れた庭園で比較的大きな敷地を持つ。電柱が見えてしまうという景観管理上の問題や、かつては芝生で覆われていたのでは、などの意見があった。

勝目氏庭園(江戸中期)：下級家臣の邸宅で小さい敷地ながら、見事な石組がなされ、遠近感の演出に優れた庭園である。樹木が大きくなり庭園とのバランスが取れていないことや石組みが崩壊しかけていることなどの指摘があった。

旧伊東伝左衛門家庭園(江戸中期)：上級家臣の邸宅である。整然とした雰囲気があり比較的手入れが行き届いている庭園であるが、樹木が大きくなっており、石組みを圧迫しているなどの意見があった。

斉藤家庭園(江戸中期)：上級家臣の邸宅である。石組みは比較的良好に残っているが、樹木が繁茂しておりバランスを崩している。所有者が我々と意見交換を行い、自ら剪定を始められたことが印象深い。

旧服部家庭園(明治末期)：飫肥の豪商が京都の庭師を呼んで作庭したといい、飛石が豪快に打たれた庭園である。樹木が繁茂していることや飛石の抜けがあることなどの指摘があった。

竹香園庭園(明治末期)：旧服部家と同じ庭師が作庭したもので、平成9年に改

修され現在公園として提供されている。近年修復されたため施設が新しく、落ち着いた雰囲気が出るには少し時間がかかるのではという意見があった。

日南市には作庭に関する記録や指図なども残されている。今後、実測調査をはじめこれら庭園群の保存と整備について、本協議会としてどのように関わっていくことができるか、引き続き検討していきます。

本研修にあたり、所有者の皆様はもちろんのこと岡本武憲氏はじめ日南市教育委員会社会教育課文化係の皆様には大変お世話になりました。この紙面をお借りして御礼申し上げます。

東京における教養研修・実技技能研修：平成15年2月11日、12日に東京において研修会が開催されました。

2月11日は清澄庭園大正記念館における教養研修（一般公開講座）。評議員龍居竹之介氏の講義「東京文化財庭園のその保存と活用」では、東京都下の文化財庭園の特徴、保存管理上の課題、京都の庭園との比較などが論じられました。評議員尼崎博正氏の講義「京都の文化財庭園」では、先生が修復指導された桂離宮庭園や平等院の州浜整備工事の事例や石燈籠等石造物の調査成果が紹介され、京都の文化財庭園が多角的な視点から論じられました。

清澄庭園見学後の情報交換会では、東京都の職員さんたちも交えて、東京の庭園管理技術について具体的な議論も展開されていました。

2月12日は旧浜離宮庭園における実技技能研修。まず芳梅亭で文化財指定庭園保護協議会会長樋渡達也氏より「東京都管理庭園の管理」について、都立庭園の景の復元、利用の復元の実際等が紹介されました。続いて現地をご案内頂き、高層ビルで囲われつつある現状に対する打開策、潮入り庭園独特の水位コントロール技術、都立公園でもある文化財庭園の管理・修復の実際等々について指導を受けました。

今回は実技技能の基本となる理念と、文化財庭園が抱える課題を理解することが大きな主題であったように思います。平成15年度においても引き続き京都と東京において実技技能研修を行っていきます。問題意識を共有しながら、新しい時代を開く技術の開発にも取り組んでいかなければならないと考えます。

東京での研修会開催に際しては、文化財指定庭園保護協議会事務局ご担当の川口博子氏はじめ東京都建設局公園緑地部の皆様には大変お世話になりました。この紙面をお借りして御礼申し上げます。

編集後記：▼長かった梅雨も明けましたが、冷夏のようなようです。日々の庭園管理においてご苦労されていると思いますが、ここが腕の見せどころ。工夫されたことなど会員諸氏のご経験をぜひ事務局までお知らせ下さい▼本年度の事業計画がまとまりました。本年度は東京、京都での実技技能研修を継続するとともに、発掘庭園の修復や、個人所有の文化財庭園をいかに守るか、などについて研修を行います。積極的なご参加をお願いいたします。会員相互の交流を深める情報交換会もごございますので、文化財庭園所有者のみなさまもぜひ御参加ください▼昨年度の研修事業について、現在くわしい活動報告書を作成中です。「このような資料集があれば」「こんな技術を皆に知ってほしい」などご意見、ご要望をぜひお寄せ下さい▼次号は11月下旬の発行予定です。
(T.N.)